

ひとすじの道をひとすじに、ひたすら歩むということは、
これもまたなかなか容易ではないけれど、
東と西に道がわかれて、それがまた北と南にわかれて、
わかれにわかれた道を さぐりさぐり歩むということは、これも全く容易でない。

どうしようか、どちらに進もうか、あれこれととまどい、思い悩んでも、
とまどい悩むだけではただ立ちすくむだけ。

自分ひとりなら、長い道程、時に立ちすくむこともよからうが、
たくさんの人があとにつづいて、たくさんの人がその道に行き悩んでいるとしたら、
わかれた道を前にして、容易でないとグチばかりこぼしてもいられまい。

進むもよし、とどまるもよし。

要はまず断を下すことである。みずから断を下すことである。

それが最善の道であるかどうかは、神ならぬ身、
はかり知れないものがあるにしても、断を下さないことが、
自他共に好ましくないことだけは明らかである。

人生を歩む上において、
企業の経営の上において、
そしてまた大きくは国家運営の上において、
それぞれに今一度、
断を下すことの尊さを省みてみたい。